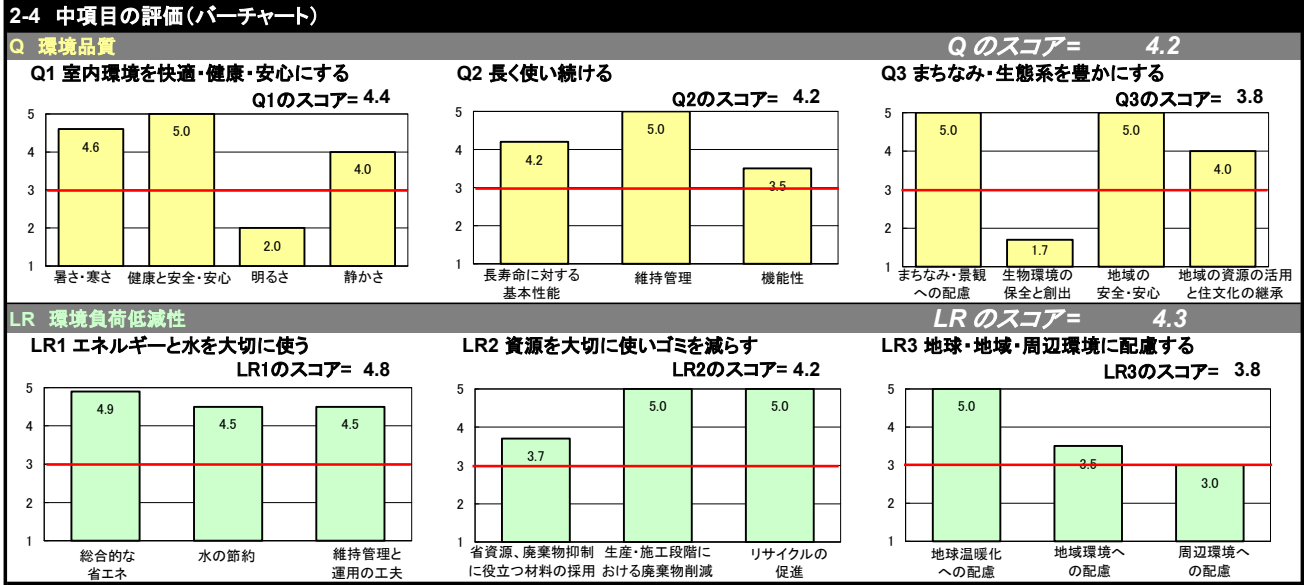
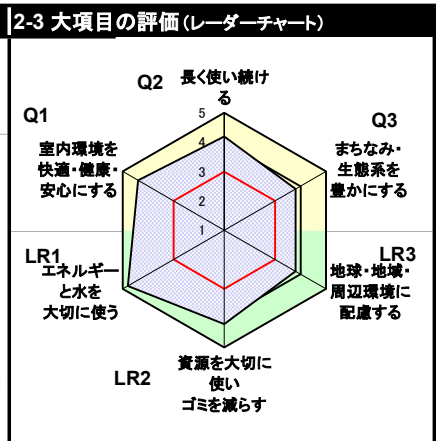
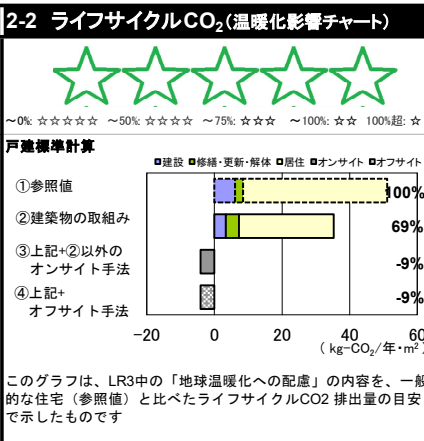
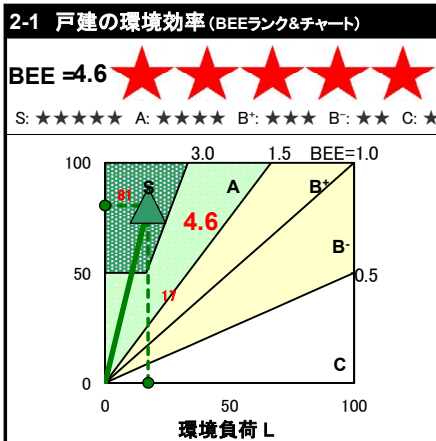


CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	認定S-ZEH第2号棟	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2021年6月	竣工	持ち込み家電等	確定	
建設地	兵庫県淡路市	確定	外構の仕様	確定	
用途地域	無指定	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	6地域	確定			
構造・構法	木造軸組工法	確定			
階数	2	確定	評価の実施日	2023年7月27日	
敷地面積	426 m ²	確定	作成者	西尾 夢	
建築面積	89 m ²	確定	確認日		
延床面積	124 m ²	確定	確認者		
世帯人数	3	確定			




3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>建物の断熱性能を高めることや自然エネルギー利用、冷暖房によるエネルギー消費を低く抑えるためのカウンターアローファンや新ストーブ(燃料は建設時の木炭材)の採用などにより、高い省エネルギー性を実現している。太陽光発電とトリプル蓄電システムの採用により、電力の自給自足が可能なレベルにまで性能を高めている。また、内外装への地域材の利用、敷地内の緑化や外構へのリサイクル材の採用などによってもライフサイクルCO₂を削減する取り組みを積極的に行っている。</p>	<p>その他</p> <p>IoT技術を取り入れ、住宅内の冷暖房機、給湯器、分電盤、太陽光発電システム、蓄電池と充電スタンドを宅外からも遠隔で制御でき、電力の使用量や発電量・充電量を確認できるようにしている。節電・省エネルギーにより配慮した生活の実現に努めている。</p>
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>HEAT20の外気性能水準で1地域のG2レベルの外気性能(UA値0.28)とすることで、冷暖房期のエネルギー消費量を低く抑えつつ高い快適性を実現している。カウンターアローファンで室温温度差を抑え健康な生活にも配慮している。</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>制振装置を設置して耐震等級3の建物として自然災害にも耐えられる安全性を実現している。外壁材や屋根材は乾式工法として交換を容易にし、長期優良住宅の基準に適合する維持管理の容易性と劣化を防ぐ性能を有している。</p>
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>1台の冷暖房設備で建物内を快適な温熱環境とするためにカウンターアローファンを採用し省エネルギー性と快適性を両立させている。トリプル蓄電システムの採用で、太陽光発電による電力の充放電を可能にして省エネルギー性を高めている。</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>構造材のプレカットやグリーン購入法特定調達品目の材料、リサイクル可能な材料の使用により、省資源化・廃棄物抑制に配慮している。外構においてはの配慮としては間伐材から製造された木質チップや木粉、木粉樹脂ペレットを材料としたウッドデッキを採用していることや、敷砂利に再利用石材を使用していることが</p>
	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>敷地内を砂利敷とすることで外構部への降雨の浸透性を良くすることで地域インフラへの負荷を抑制している。敷地内の仕上げは周辺温熱環境にも関わるため、舗装は最小限に抑えヒートアイランド防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

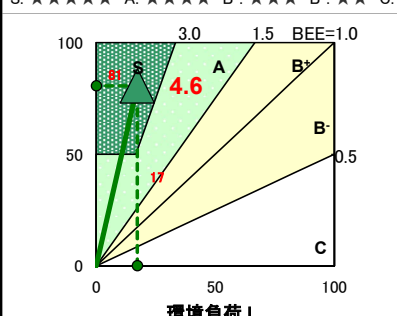
■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築) 2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	認定S-ZEH第2号棟		仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2021年6月	竣工		持ち込み家電等	確定
建設地	兵庫県淡路市			外構の仕様	確定
用途地域	無指定	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	6地域				
構造・構法	木造軸組工法	確定	評価の実施日	2023年7月27日	
階数	2		作成者	西尾 夢	
敷地面積	426 m ²	確定	確認日		
建築面積	89 m ²	確定	確認者		
延床面積	124 m ²	確定			
世帯人数	3	確定			

2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

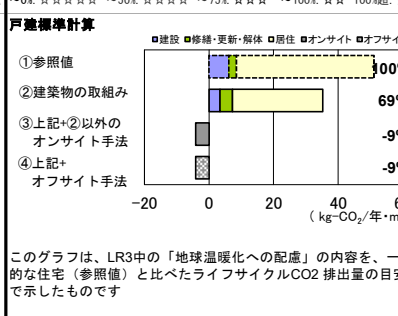
BEE = 4.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

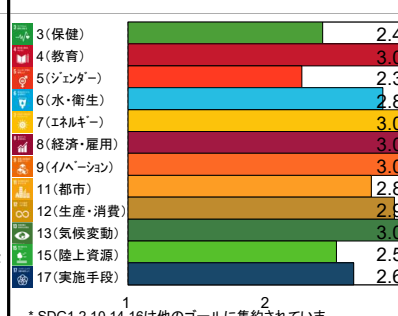


戸建標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外のオンサイト手法 ④ 上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果



3(保健)	2.4
4(教育)	3.0
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.8
7(エネルギー)	3.0
8(経済・雇用)	3.0
9(イノベーション)	3.0
11(都市)	2.8
12(生産・消費)	2.9
13(気候変動)	3.0
15(陸上資源)	2.5
17(実施手段)	2.6

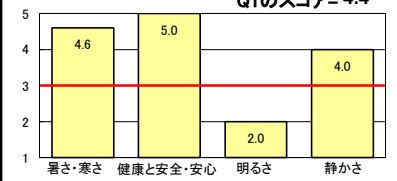
* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 4.2

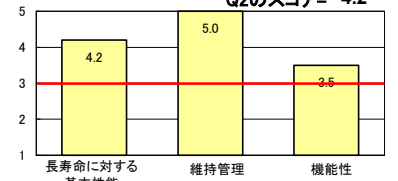
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 4.4



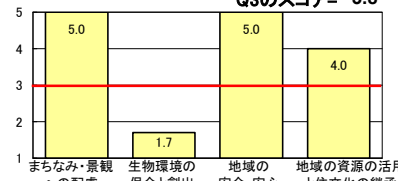
Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.2



Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

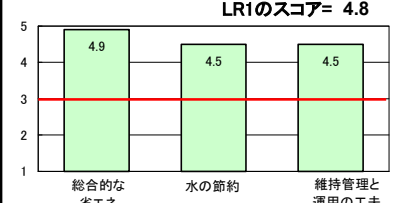
Q3のスコア = 3.8



LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.3

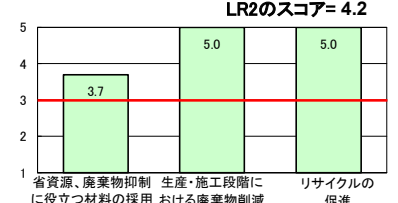
LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.8



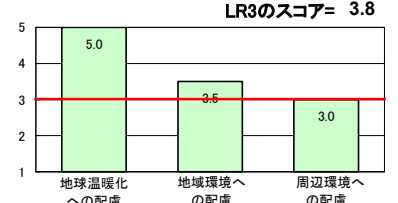
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 4.2



LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.8



3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>建物の断熱性能を高めることや自然エネルギー利用、冷暖房によるエネルギー消費を低く抑えるためのカウンターアローファンや薪ストーブ(燃料は建設時の木炭材)の採用などにより、高い省エネルギー性を実現している。太陽光発電とトリプル蓄電システムの採用により、電力の自給自足が可能なレベルにまで性能を高めている。また、内外装への地域材の利用、敷地内の緑化や外構へのリサイクル材の採用などによってもライフサイクルCO₂を削減する取り組みを積極的に行っている。</p>	<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>HEAT20の外皮性能水準で1地域のG2レベルの外皮性能(UA値0.28)とすることで、冷暖房期のエネルギー消費量を低く抑えつつ高い快適性を実現している。カウンターアローファンで空間温度差を抑え健康な生活にも配慮している。</p>	<p>IoT技術を取り入れ、住宅内の冷暖房機、給湯器、分電盤、太陽光発電システム、蓄電池と充電スタンドを宅外からも遠隔で制御でき、電力の使用量や発電量、充電量を確認できるようにしている。節電・省エネルギーにより配慮した生活の実現に努めている。</p>
<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>制振装置を設置して耐震等級3の建物として自然災害にも耐えられる安全性を実現している。外壁材や屋根材は乾式工法として交換を容易にし、長期優良住宅の基準に適合する維持管理の容易性と劣化を防ぐ性能を有している。</p>	<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>外構計画ではオープン外構として敷地内に植樹を行い、照明を計画的に配置して良好な環境形成に配慮している。内外装に地域材である徳島杉を積極的に活用し、地域の山林環境の保全に取り組んでいる。</p>	
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>1台の冷暖房設備で建物内を快適な温熱環境とするためにカウンターアローファンを採用し省エネルギー性と快適性を両立させている。トリプル蓄電システムの採用で、太陽光発電による電力の充電を可能にして省エネルギー性を高めている。</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>構造材のプレカットやグリーン購入法特定調達品目の材料、リサイクル可能な材料の使用により、省資源・廃棄物抑制に配慮している。外構においての配慮としては間伐材から製造された木質チップや木粉、木粉樹脂ペレットを材料としたウッドデッキを採用していることや、敷砂利に再利用石材を使用していること</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>敷地内を砂利敷とすることで外構部への降雨の浸透性を良くすることで地域インフラへの負荷を抑制している。敷地内の仕上げは周辺温熱環境にも関わるため、舗装は最小限に抑えヒートアイランド防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)

■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE₀₁、Q₀₁、LR₀₁などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した

■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q₀₁、LR₀₁中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)

■ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算」シートを参照されたい